



情報通信プログラム 助教 チョ ニラ ピョ

出身:ヤンゴン, ミャンマー
趣味:料理をすること、読書
講義:情報データリテラシー、プログラミング演習II
専門:画像処理とコンピュータビジョン

ひとこと

AIで高信頼なスマートヘルスケアとスマートビデオ監視を実現し、安全で健康な社会を築きましょう。

研究内容

スマートヘルスケア向け映像ベース在宅リハビリシステム

- 本研究の目的は、スマートヘルスケアの実現に向けて、映像ベースによる高度な在宅リハビリシステムを開発することです。
- 本システムは、人間のキージョイントに基づく動作パターンを高精度に解析し、リハビリ動作の定量的評価を実現します。これにより、個別最適化されたリハビリ支援の高度化を目指します。

スマートオフィス向け映像ベース腰痛予防のための座位姿勢分析システム

- 本研究の目的は、映像データを用いてオフィスワーカーの座位姿勢を分析し、腰痛予防を支援するシステムを開発することです。
- 本システムは、人間のキージョイントの位置およびその時間的変化に基づき、座位姿勢の状態を高精度に解析します。その結果に基づき、腰痛リスクの低減と姿勢改善支援の実現を目指します。

スマートシティ向け映像ベース侵入者予測システム

- スマートシティの開発は世界中で注目されています。
- 公共の安全を守ることは大きな課題の一つです。
- 本システムは、工事現場やイベント会場などで設けられた立入禁止区域に侵入する人を自動で検出します。

この研究はどう役立つ？研究から学べることは？

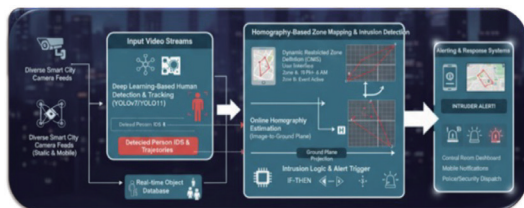
- 病院に行かなくても、質の高いリハビリを自宅で継続できるようになります。センサーを体に装着する負担を無くし、カメラ1台だけで解析できるようになります。
- 座位姿勢を映像から解析することで、腰痛予防に役立ち、コンピュータビジョンとデータ駆動型ヘルスケア応用の知見を得られます。
- セキュリティが人間の日常生活で最も重要な役割を果たしています。スマートビデオ監視システムは安全安心な社会の実現に役立ちます。



スマートヘルスケア向け映像ベース在宅リハビリシステム



スマートオフィス向け映像ベース腰痛予防のための座位姿勢分析システム



スマートシティ向け映像ベース侵入者予測システム